

## [03\_03]九州大学大型計算機センター広報 : 3(3)

<https://doi.org/10.15017/1467968>

---

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (3), pp.1-31, 1970-06-10. 九州大学大型計算機センター  
バージョン :  
権利関係 :

## 九州大学大型計算機センターの開所式を迎えて

九州大学長 入江英雄

本日ここに九州大学大型計算機センター開所式を挙げるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

現在及び将来の科学技術の発展が電子計算機に負う所絶大である事は申すまでもない事でありませう。

去る昭和43年度を期して、本学に、大型電算機の設置が決定されましたのも、その実現が学内関係者の努力及び学外の方々のご支援の賜であった事は勿論としまして、一方これを学問の推進という大学の使命から考えるならばむしろなさるべくしてなされた決定であったとも考えられるのであります。そのように今や大型電算機を持つ事は、学問研究にとって緊急、不可欠の条件となっているわけでありませう。

しかるに、昭和43年6月、建設途上にあつたこのセンター建物に、米軍用機が墜落するという事件が起り、ご承知のとおり、これを契機として、本学は紛争の嵐にまきこまれ、かつてない苦悩を味うことになつたのであります。

センター建設工事は長期にわたって阻止されました。

その間、電子計算機自体は、九州電力株式会社のご好意により、同社の建物において、仮設センターとして業務をつづける事が出来ました。

しかし学内の状況は日と共に悪化の一路をたどり、ついにはセンターの建設を断念する事さえ余儀なくされるような事態にまで立ちいたつたのであります。

しかも、事態は、もはや電算機センターの建設問題をこえて本学自体の興廃にかかわるものとなつていました事は今更私が申し上げるまでもない事でありませう。

およそ大学の使命が学問研究にあり、大型電子計算機が学問研究に不可欠の要素であるとするならこの建設を暴力から守つてなすとげる事が、大学の使命をはたす所以であると考えられたわけでありませう。それがまた大学の自治を貫く姿勢であると固く信じたのであります。この考えは勿論今も変わる事はありません。

また、このセンターは、ひとり九大の研究のためだけのものではなく、全国共同利用施設、とくに西日本地区のサービスセンターとして、その完成が待たれていたのでありますから、その点での責任をも本学は負わされてきたわけでありませう。

当初の予定よりおくれる事まさに一年半にしてようやく本日開所式を迎えるにいたりました事はこの間に本学の受けた試練が大きかつたとは申せ、私と致しましては、各方面にご迷惑をおかけしたことに対し心からお詫び申し上げなければなりません。一方このような長期にわたる建設遅延に対して政府当局がとられた理解ある態度に、謝意を表するものであります。

ともかくこのセンターは全国大学の研究施設の建設にその類を見ないような、苦難を経て完成されたものであります。

私はセンター従事者各位が仮設センターの不自由な環境の下で今日まで営々と業務に従事して来られたその労を多とすると共に、今後ますます精進されて大方の期待にこたえられんことを希うものであります。

また利用者の方々にも、このセンター建設にかたむけたわれわれの熱意をお汲み下さって立派な成果を挙げて下さるようお祈りする次第です。

長期にわたる工事中止のために生じた休業補償の不足分を学内教官各位のご協力に仰ぎましたところころよく多額の寄金を約束していただきました。このご高志は私が学長として終生忘れることのできない感激であります。

最後に、センター建設のために援助と協力を惜しまれなかった諸方面の方々に対し、九州大学を代表して深甚の謝意を表しますと共に、本日、ここに、万障お繰合せの上ご出席下さった皆様方に厚くお礼申しあげて私の挨拶を終りたいと存じますがなお、このセンター建物の完成は私共が心からよろこびを禁じ得ないところで、その意味では盛大な祝典なども催したい気持は山々でございますが、客観的には謙虚な反省と自粛をなすべき事態と考えますので、本日は単に完成したセンターを見ていただくことに主眼をおき、専ら質素を旨としましたので、遠来の方々には何のおもてなしもできずまことに恐縮ですが、私共の意のあるところを何卒ぞご了解下さるようお願い申し上げます。

昭和 45 年 5 月 8 日